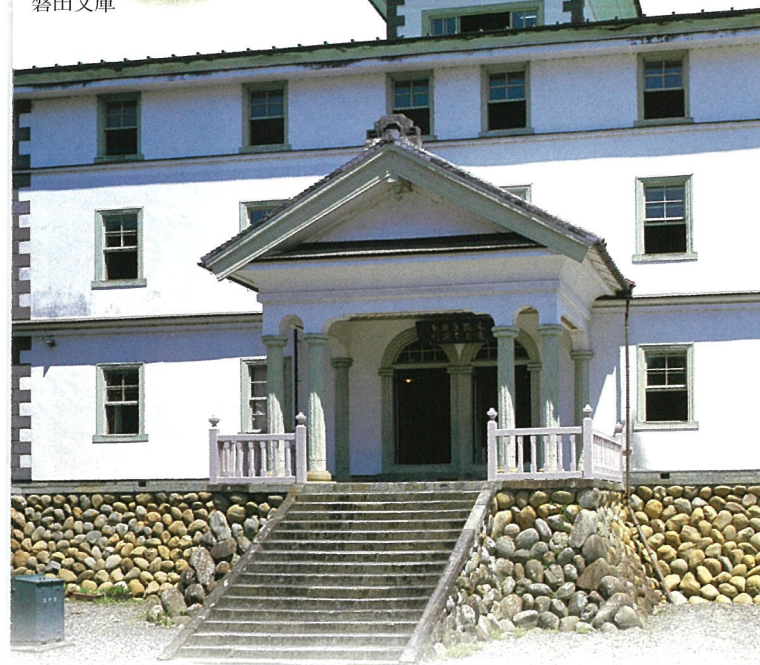


国史跡 旧見付学校 附磐田文庫

National Historical Site
The Former Mitsuke School
Iwata Library



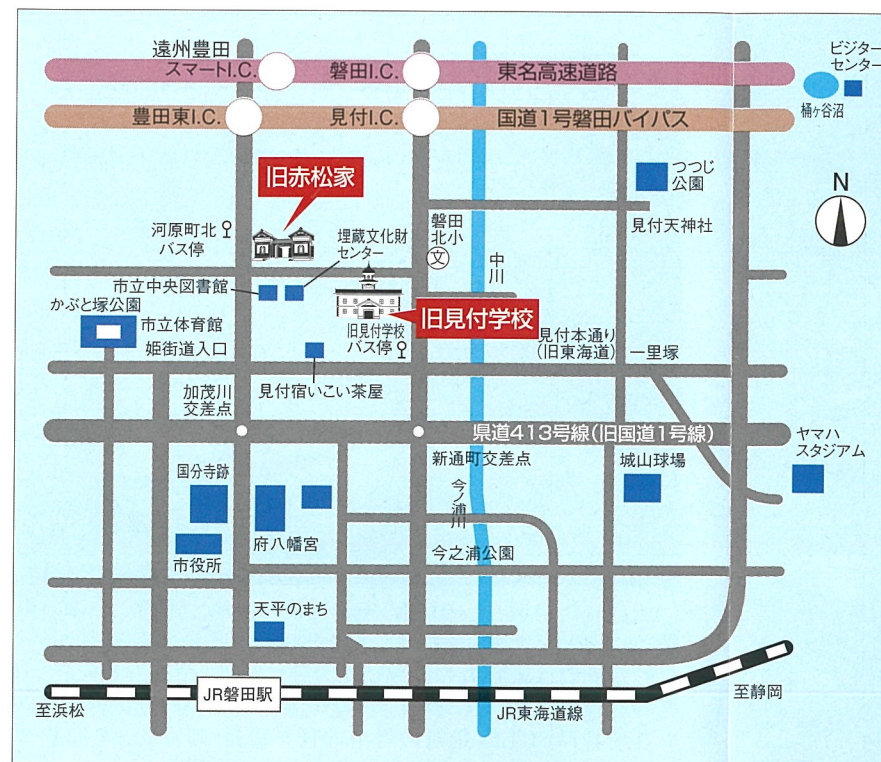
磐田文庫



旧見付学校

〒438-0086 静岡県磐田市見付2452 TEL・FAX (0538) 32-4511
E-mail: iwata-mitsuke@uv.tnc.ne.jp

磐田市教育委員会



入館案内

- 入場料 無料
- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 毎週月曜日(ただし月曜日が祝日または振替休日に当たるときは開館)、国民の祝日の翌日(ただしこの日が土・日・月曜日に当たるときは火曜日が休み)、年末年始(12月29日～1月3日)

交通のご案内

旧赤松家

- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル②のりば 遠鉄バス⑩「二俣山東行き」⑩「らばーと磐田行き」乗車「河原町北」下車徒歩1分
- ◇東名高速磐田ICから約3.3km(約10分)
- ◇国道1号磐田バイパス豊田東ICから約500m(約2分)
- ◇県道413号線(旧国道1号線)加茂川交差点から車で北へ約1km(3分)

旧見付学校

- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル①のりば 遠鉄バス⑩「磐田市立病院行き」乗車「旧見付学校」下車徒歩1分
- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル②のりば 遠鉄バス⑩「見付磐田営業所行き」乗車「新通町」下車徒歩5分
- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル②のりば 秋葉バス「遠州森町行き」乗車「旧見付学校」下車徒歩1分

磐田市ホームページ



磐田市文化財



旧赤松家



旧見付学校

広告

美味咲き、心とむひとときを。



磐田市見付幸町3884-5 ☎0538-32-7078
定休日/月曜日 URL: <http://tenhiro.com/>



学校法人 磐田東学園

磐田東中学校・高等学校



赤松照彦氏との由縁

磐田東学園理事長
(1962～1979)

磐田東高等学校校長
(1964～1978)

〒438-0086 静岡県磐田市見付180-5
TEL.0538-32-6118(代)

E-mail: voice@iwatahigashi-h.ed.jp

www.iwatahigashi-h.ed.jp/



広告

遠州見付天神奉納名物栗餅

井口製菓(有)

磐田市見付2663
☎0538-32-3951
☎0538-32-2451

第20回 全国菓子大博覧会
名誉会長賞受賞

酒類専門店
創業明治10年



大橋商店

〒438-0086

磐田市見付 1232-1

TEL:0538-32-5222

平日 9:00～20:00

日祝 9:00～19:00

定休日 水曜日

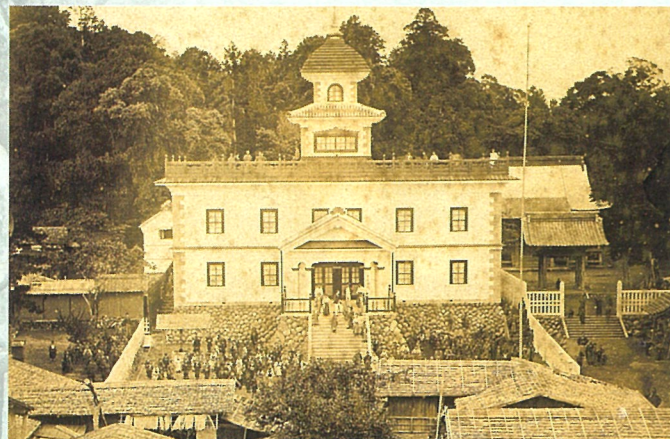


～お酒は20歳になってから～

見付学校の開校

明治5年(1872年)の学制発布を受け、見付学校は翌年8月に宣光寺、省光寺などを仮校舎として開校しました。同時に淡海国玉神社神官・大久保忠利、区長兼学区取締・古澤脩らを中心とした町の有力者の協力によって資金調達が行われ、新校舎の建設が進められました。

新築工事は、名古屋の堂宮棟梁・伊藤平右衛門(後の9代目伊藤平左衛門)に委嘱し、明治7年(1874年)10月に工事着手、翌年1月11日に上棟式を行い、8月7日に落成、開校式を挙げました。



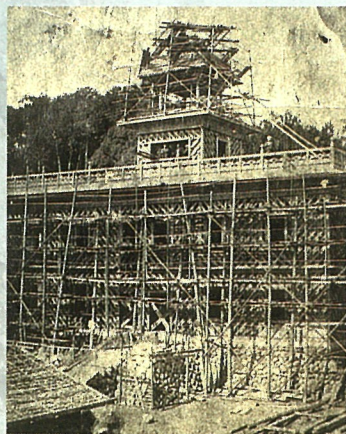
明治8年(1875年)8月7日に落成、開校式を挙げた見付学校

校舎の特徴

新築された校舎は、基礎石垣積みの上に木造擬洋風2階建てで、規模は間口12間(21.8m)、奥行5間(9.1m)、屋上に二層の楼が重ねられ、二階二層となっていました。正面には伊豆石の石段が設けられ、玄関はエンタシス様式に近似した飾り柱を配しています。基礎の石垣は遠州横須賀城のものだと伝えられています。



見付学校建築棟梁 伊藤平右衛門



建築中の見付学校校舎



(表)



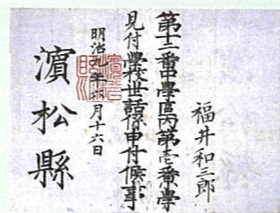
棟札

(裏)



伝酒井之太鼓

酒井忠次が徳川家康の窮地を救ったと伝えられる太鼓です。見付の町民がこれを買受け、見付学校の開校を祝して寄贈しました。



学校世話係申付書



新築学校法方

学校世話係・福井和三郎の記録した建築経費の古文書とその内容です。新築に要した経費は4,854円で、その資金は大代山の売払金、御下金(補助金)のほか、町民の寄付によるものです。



学資金五箇年納利盛帳

明治6年8月から学校建築資金を町民から募りました。最高130円、108円、119名が記されています。



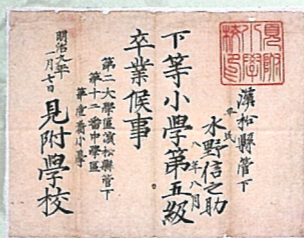
見付学校開校を祝って浜松県令・林厚徳から寄贈された扁額

「木繩を受くれば則ち直く、金繩に就けば則ち利し。」中国の「荀子」勸学編の文中の一節で、曲がった木も墨繩を当てて切れば真っ直ぐに切れ、金物も砥石で磨けば切れるようになるという意味です。

展示案内



館内1階に再現した明治期の授業風景



明治9年の修業証書

6ヶ月ごとの進級試験に合格した者に渡されました。

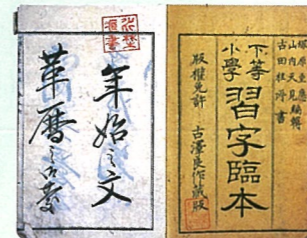


児童の図画作品



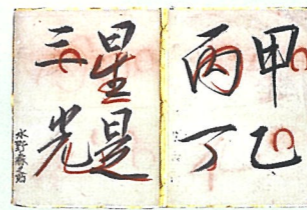
石盤

まだ紙が貴重だった頃に使用しました。



下等小学習字臨本

見付学校の教員たちが編集し、見付町の古澤書店で発行された教科書です。



朱墨で添削された習字作品



就学札

見付学校の在学証明書のようなもの。児童の衣類に付けさせ、就学を促しました。

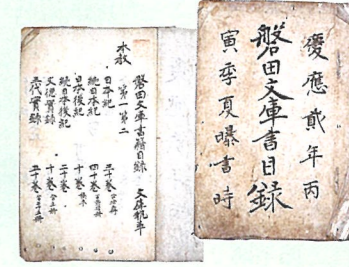
磐田文庫と大久保家

大久保家は旧見付学校の西側にあり、元亀元年(1570)より代々淡海国玉神社の神官を務めてきました。13代・大久保忠尚は、国学の祖・賀茂真淵の流れをくむ幕末の国学者であり、私宅にて私塾を開いて近隣子弟の教育に努め、元治元年(1864)4月に磐田文庫を創設しました。磐田文庫は、間口3間1尺、奥行2間1尺、木造井楼組2階建てで、多くの門下生などが利用していました。

なお、見付学校建設を推進した区長兼学区取締・古澤脩をはじめとする町の有力者の多くが忠尚の門下生であり、学校敷地を寄付した14代・大久保忠利とともに見付学校の運営に尽力しました。



大久保忠尚



磐田文庫目録

旧見付学校の沿革

年	明治	大正	昭和	平成	(制 度)
1872	明治 5年				8月学制発布(太政官布告第214号)
1873	明治 6年				8月見付学校、宣光寺・省光寺などを仮校舎として開校
1874	明治 7年				10月見付学校新築工事着手
1875	明治 8年				1月上棟式挙行 8月見付学校四階校舎落成式挙行
1876	明治 9年				9月四階校舎東側に第一副築校舎新築
1883	明治16年				8月四階校舎の3階部分を増築、五階校舎となる
1885	明治18年				9月東側第一副築校舎の2階部分を増築
1887	明治20年				7月見付学校を見付尋常小学校と改称
1897	明治30年				3月塔之塚運動場に第二副築校舎を新築し、付属幼稚園開設
1902	明治35年				4月付属幼稚園を金剛寺に移転、第二副築校舎を尋常小学校が使用
1904	明治37年				尋常科の授業料徴収を廃止
1908	明治41年				4月見付尋常小学校を見付尋常高等小学校(男子部)と見付女子尋常高等小学校の2校とする。女子部は五階校舎、男子部は鐘鐘塚校舎
1913	大正 2年				9月見付女子尋常高等小学校を城之腰に新築移転、付属幼稚園も金剛寺より城之腰に移転
1914	大正 3年				7月見付尋常高等小学校(男子部の一部)五階校舎を使用
1922	大正11年				4月五階校舎は小学校校舎としての使用を終える 静岡県立見付中学校開校(五階校舎を借用して一学期間使用) 8月大日本見付練武館(柔道場)五階校舎で開館
1925	大正14年				3月私立見付高等裁縫女学校、五階校舎に移転使用 見付第一尋常高等小学校・見付第二尋常高等小学校が合併、見付町立尋常高等小学校と改称(全町児童城之腰校舎に一斉収容)
1939	昭和14年				9月磐田郡教育会施設准教員養成所、五階校舎に移転使用
1942	昭和17年				4月准教員養成所を磐田郡高等国民修練所と改称(翌年3月廃止)
1945	昭和20年				4月浜松陸軍病院見付臨時分院、五階校舎で開院
1946	昭和21年				5月国民健康保険組合立磐田病院、五階校舎で開院
1953	昭和28年				9月磐田市立郷土館、五階校舎で開館
1969	昭和44年				4月五階校舎、磐田文庫とともに国指定史跡となる
1977	昭和52年				3月五階校舎、解体保存修理工事完成(27ヶ月・8,000万円)
1991	平成 3年				2月五階校舎、保存修理工事完成(6ヶ月・1,400万円)
1992	平成 4年				1月磐田市立郷土館を磐田市旧見付学校と改称 12月磐田文庫解体復元工事完成(25ヶ月・4,800万円)

(明治6年)
下等小学 4年
上等小学 4年

(明治15年)
初等科 3年
中等科 3年
高等科 2年

(明治19年)
尋常科 4年
高等科2~4年

(明治40年)
尋常科 6年
高等科2~3年

(昭和16年)
初等科 6年
高等科 2年

(昭和22年)
小学校 6年
中学校 3年